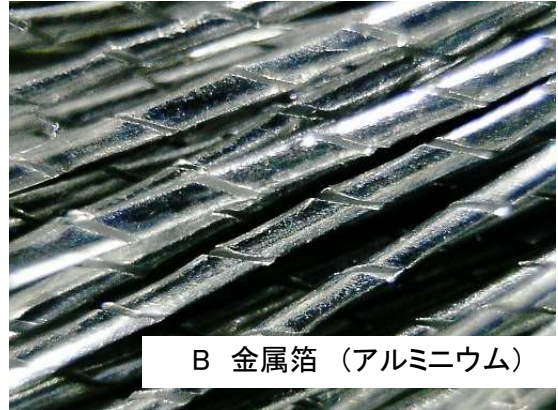




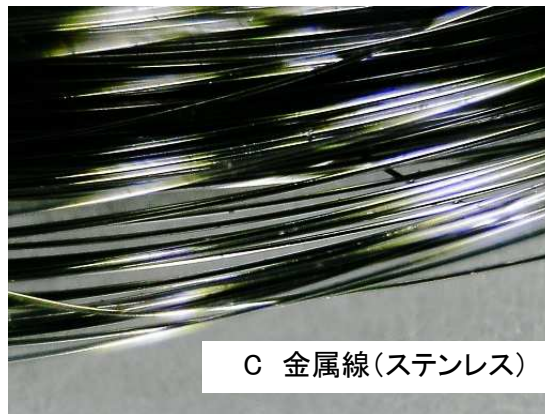
アドバイス内容



A 金属蒸着(アルミニウム)



B 金属箔 (アルミニウム)



C 金属線(ステンレス)

金色・銀色など金属光沢のあるラメ糸は「蒸着」によって金属を付着させています。弊社商品の一例としては、**700~800 オングストローム(0.00007mm)の厚みの金属が蒸着されています**。ベースフィルムが12~25 ミクロン(0.012mm~0.025mm)なので**金属の量は全体においてわずかな比率**です。よって、混率表示において金属が現れない場合がほとんどです。

A の写真はフィルムにアルミ蒸着したラメ糸の燃糸品です。「ラメ糸」に金属の持つ効果を期待される方は多いですが、思うように得られないことも多いです。

一部、フィルムに金属箔を貼り合わせたタイプのラメ糸も存在します。金属箔はおおよそ10ミクロンほどになりますので混率表示に金属が出てきます。

燃糸などされていると、見た目では一見分かりません。B の写真です。

海外で買い付けた製品の混率に、「銅」が入っていたという話がありました。これは、金属箔(銅)をスリットしたものを、他の糸に燃糸してあるタイプだと考えられます。「銅」は変色を起こしやすいので日本で製造される衣服などに使用されることはあまりありません。このあたりになると、「ラメ糸」というより「金属糸」に分類されるでしょう。

C の写真はステンレス糸です。形状記憶などの効果がありますので、金属糸の中ではファッションに使用されることが多いです。これは「糸」という風には呼んでいますが金属線で金属そのものです。



① アルミ 蒸着



② アルミ 箔



③ ステンレス系

